

COVID-19についての対応

～わたしたちができること～

2019年末から2020年にかけて、SARS-CoV-2ウイルスによって引き起こされるCOVID-19が深刻な公衆衛生上の問題となっています。その感染は中国から起こり、アジアで広がった後、2月下旬から3月上旬にかけてヨーロッパ、アメリカおよびアフリカにも広がっております。

このような世界的危機に直面したことを受けて、北海道大学卓越大学院はWISE COVID-19 Tackling Teamを組織し、社会貢献としてできることを検討しました。様々な情報および憶測が錯綜する中で、我々は自身の視点で必要な情報を的確に発信したいと考え、チームの活動に同調してくれる大学院生を3月10日に募集しました。3月12日に、参加を希望した全13名が集い、本チームの主旨および活動について確認をした後、COVID-19の世界的および日本における感染状況と、それに起因する問題や不明な点についてブレインストーミングを実施しました。ブレインストーミングを通して、病原ウイルスや感染に関する知識を共有できた一方で、対応策の妥当性や情報の正確性などについて参加学生間で問題提起できたと思います。ブレインストーミングの内容を踏まえ、参加学生は3つのグループに分かれ、病原体、疫学（とりわけ2003年に発生したSARSおよび2009年に発生した新型インフルエンザとの比較）、発信すべき内容について情報収集を行い、3月18日に発



グループワークで情報、意見をまとめる

表会を行いました。発表会には参加大学院生以外の教員や学生も参加し、科学的側面に限らず社会的影響や人間心理に迫る内容まで、幅広い内容で活発な意見交換がなされました。様々な媒体を通じ、参加学生はCOVID-19に関する重要な情報をまとめることができましたが、この段階では当初の目的にあった、『必要な情報の適切な伝達』までには達することができなかったと感じました。この点については、企画者である教員の問題と反省し、至急改善すべきと考えました。そこで、COVID-19に関する具体的なリスクの大きさ、制御に困難な事柄、現時点での対策の有効性そして大衆に必要な情報について、情報収集を再度行い、3月24日に発表会を行いました。この結果、2回のグループワークを経験することで、参加学生は感染症の制御に関わる多くの要因を理解し、その要因に関する異なる立場での解釈の違いを認識し、様々な目線や立場に立って検討することの重要性を実感してくれたと思います。認識の違いを理解した上で、3月26日に発信すべき情報内容をチーム全体としてまとめあげる作業を開始しました。結果的には参加学生独自の意見などはそれほど多くは無いかもしれませんが、そこに行きつくまでの過程について、参加学生を含め本プロジェクトに参画した人全員が実りある内容であったと感じました。成果物としては、COVID-19感染防止に関するポスターとその内容をまとめたウェブサイトができ上がり、これらは4月20日に公開されました。また、北海道大学の学生相談総合センターにも提供しています。

本活動は急遽の決定で内容が不明瞭であったにも関わらず、活動後のアンケート結果では、参加学生の多くが、活動結果に概ね満足するという結果でした。参加学生のモチベーションは高かったのですが、グループワークでの役割分担や達成度については難しかったことも多く、状況に応じて課題を適切に設定することについては、卓越大学院の活動全般を通じ、学生のみならず教職員も引き続き勉強が必要だと感じました。

参加者へのアンケート

開始前、本コースに対する期待は大きかったか？

★★★★★ 4.7

開始前、本コースに対して自身が貢献できると思っていたか？

★★★★★ 4.1

コース期間中、コースに十分なエフォートを費やせたか？

★★★★★ 4.3

コースの活動に十分な貢献ができたと感じるか？

★★★★★ 4.2

コースの活動と自身の研究活動の両立は難しかったか？

★★★★★ 2.5

コース期間中、他の参加者は十分に貢献していたかと思うか？

★★★★★ 2.0

企画者(教員)は十分な指導を行ったか？

★★★★★ 3.9

企画者(教員)は議論やグループワークを十分にサポートしたか？

★★★★★ 4.5

全体を通して、企画者(教員)は十分にコースを編成し準備を行っていたか？

★★★★★ 4.4

■ 本コースに参加した主な動機は？

- ◎博士学生の学生として、COVID-19について理解し、感染を制御することによって大衆への貢献をしたかった。
- ◎減多に出くわすことのない大規模な疾病発生について、リアルタイムでの緊急対応とそのための チームワークについて実践を通して学びたかった。

■ コース開始前に、事前にもっと知っていた情報は？

- ◎診断方法などについて事前情報があれば良かった。
- ◎このコースについての成果物についてもっと詳細を知りたかった。
- ◎COVID-19に関する教員側の意見を知りたかった。

■ 本コースで活動するにあたり、自身の研究への影響はどうだったか？

- ◎週末に多く勉強することとなった。
- ◎本コースの準備のため、自身の研究の予定を変更することとなった。

■ 他の参加者に対する意見は？

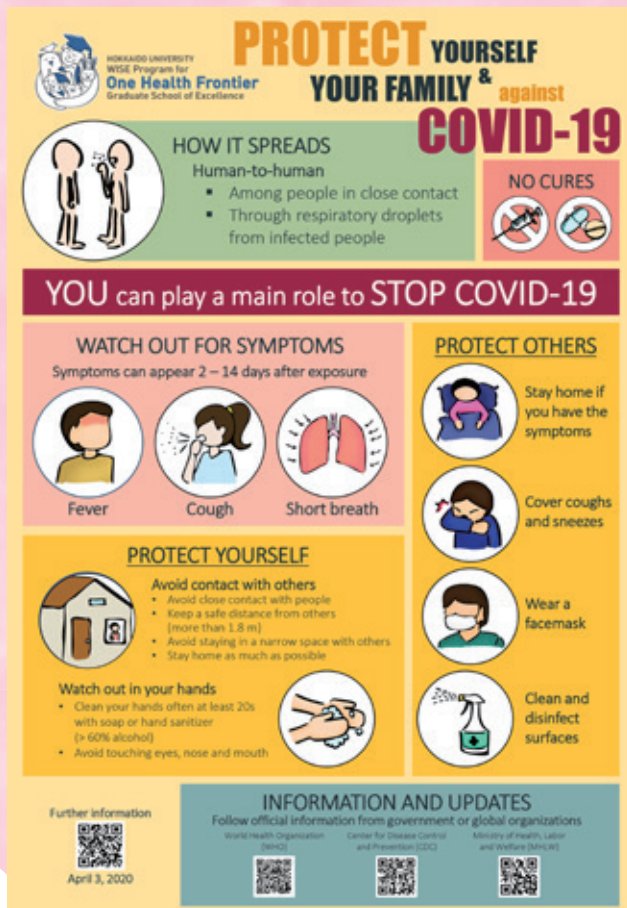
- ◎もっと積極的に関与してほしかった。
- ◎他人の意見にもっと耳を傾けるべきである。

■ 本コースの指導に関する改善点について

- ◎日本人学生にもっと参加してほしい。
- ◎参加学生がもっと積極的に貢献すべきだった。
- ◎時間が足りなかったのもっと余裕のあるコースが望ましい。
- ◎指導内容が不明瞭であったので、発表の目的や求められていることをもっと明確にかつ具体的に指示してほしい。
- ◎感染症の専門家として、教員の意見を聞きたかった。



発表会でのディスカッションの様子



参加学生が作成したCOVID-19感染防止ポスター